



HxMIDI Tools

ユーザーマニュアル V06

本製品をご使用になる前に、このマニュアルをよくお読みください。ソフトウェアとファームウェアは継続的に更新されます。このマニュアルのすべての図とテキストは実際の状況とは異なる場合があります、参照用です。

著作権

2025 © CME PTE.株式会社。全著作権所有。CME の書面による同意なしに、このマニュアルの全部または一部をいかなる形式でもコピーすることはできません。CME は CME PTE の登録商標です。LTD.をシンガポールおよびその他の国に設立しました。その他の製品名、ブランド名は、各社の商標または登録商標です。

HxMIDI Tools ソフトウェアのインストール

<https://www.cme-pro.com/support/> にアクセスして、無料の HxMIDI ツールコンピューターソフトウェアをダウンロードしてください。MacOS、Windows 10/11、iOS、Android バージョンが含まれ、すべての CME USB HOST MIDI デバイス(H2MIDI Pro、H4MIDI WC、H12MIDI Pro など)用のソフトウェアツールであり、次の付加価値サービスを利用できません。

- CME USB HOST MIDI デバイスのファームウェアをいつでもアップグレードして、最新の機能を利用できます。
- CME USB HOST MIDI デバイスのルーティング、フィルタリング、マッピング、およびその他の操作を実行します。
 - * 注: HxMIDI Tools Pro は 32 ビット Windows システムをサポートしていません。

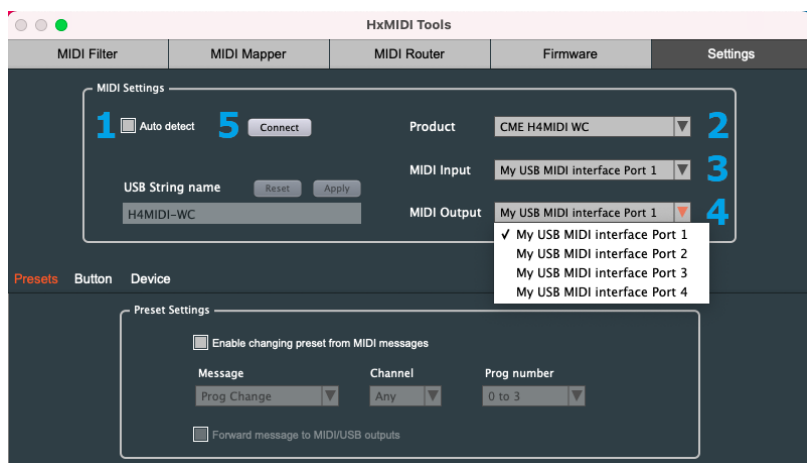
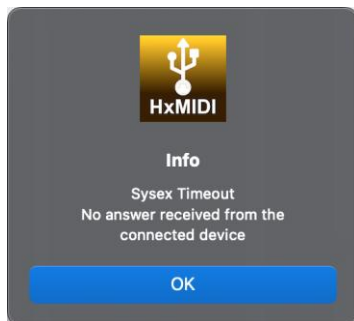
接続 とアップグレード

CME USB HOST MIDI 製品の特定のモデルの USB-C クライアントポートを USB データケーブルでコンピューターに接続してください。ソフトウェアを開き、ソフトウェアがデバイスを自動的に認識するのを待ってから、デバイスのセットアップを開始します。

*注1:一部のUSBケーブルは充電にのみ使用でき、データを転送することはできません。お使いのUSBケーブルがデータ転送に使用できるかご確認ください。

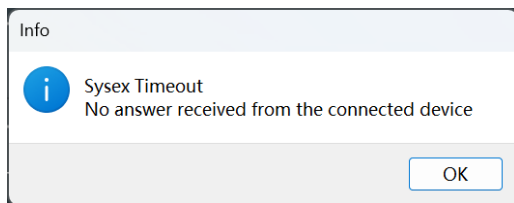
* 注2: HxMIDI Tools は、Bluetooth 接続経由で CME USB HOST MIDI インターフェースを設定することはできません。

* 注3: MacOS では、CME USB Host MIDI 製品の USB デバイス名を変更した場合、または MIDI Studio の Audio/MIDI 設定でソフトウェアリーダーを使用して製品の最初の USB MIDI ポートを占有した場合、HxMIDI Tools は製品を自動検出できず、接続タイムアウトのメッセージが表示されます。[Settings] ページで手動で設定するには、以下の手順に従ってください。

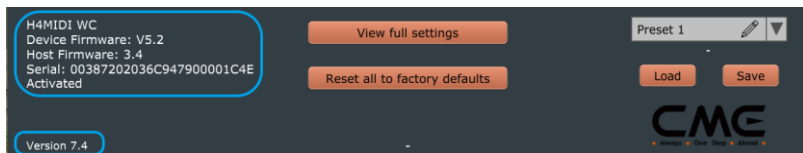


1. [Auto detect] オプションのチェックを外します。
2. [Product] リストで接続した製品を選択します。
3. [MIDI Input] リストで、接続した製品の最初の USB ポート（またはポートがルーティングされている仮想デバイスポート）を選択します。
4. [MIDI Output] リストで、接続した製品の最初の USB ポート（またはポートがルーティングされている仮想デバイスポート）を選択します。
5. [Connect] ボタンをクリックします。

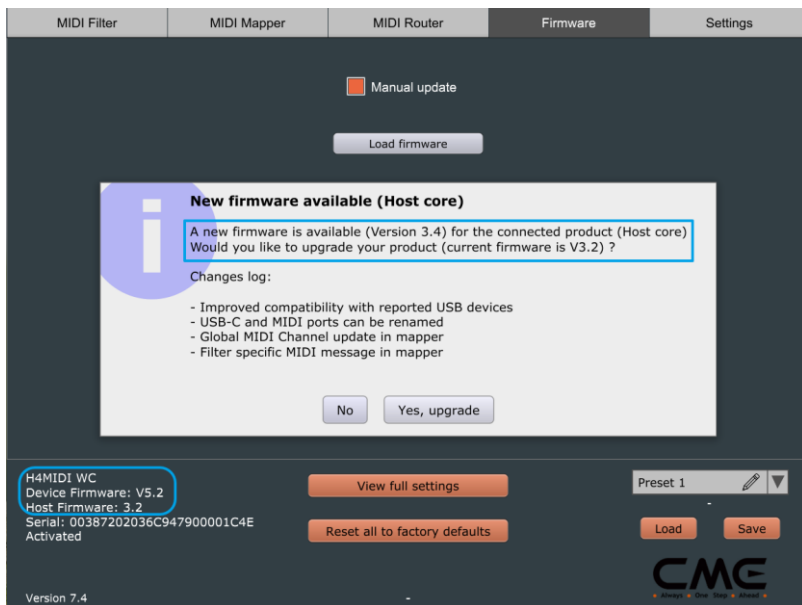
* 注: Windows の場合も同様に、他の音楽ソフトウェアが最初の USB MIDI ポートを占有していると、HxMIDI Tools は製品を自動的に検出できず、接続タイムアウトが表示されます。すべてのソフトウェアを閉じ、HxMIDI Tools のみを開いてください。



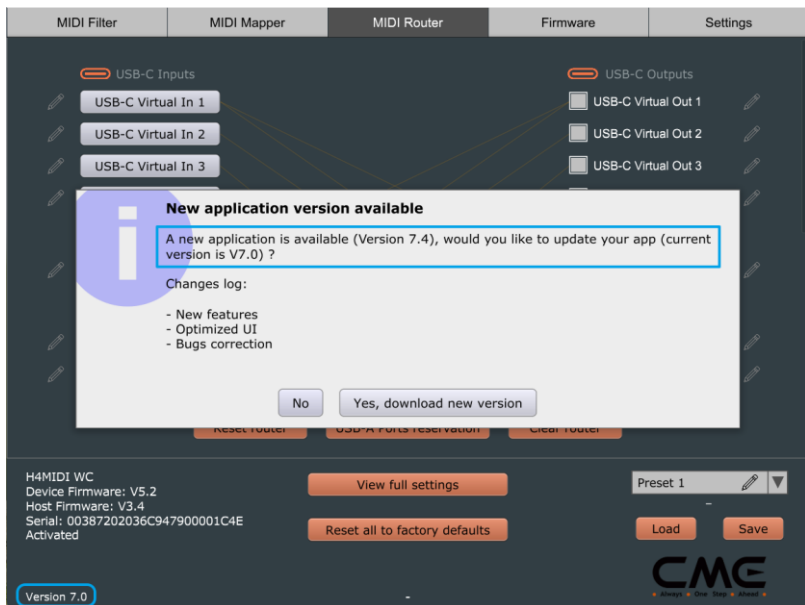
ソフトウェア画面の下部には、モデル名、ファームウェアバージョン、製品シリアル番号、および製品のソフトウェアバージョンが表示されます。現在、HxMIDI Tools ソフトウェアでサポートされている製品には、H2MIDI Pro、H4MIDI WC、H12MIDI Pro、が含まれます。



CME サーバのバージョンが、接続されたデバイスの組み込みファームウェアよりも高いバージョンであることがソフトウェアによって検出された場合、ソフトウェアはポップアップウィンドウを通じてアップグレードするように促します。「Yes, upgrade」ボタンをクリックすると、ソフトウェアが自動的に最新のファームウェアをダウンロードして、接続されたデバイスにインストールします。アップグレードが完了すると、ソフトウェアは、デバイスを再接続して最新のファームウェアを有効にするようにユーザーに求めます。

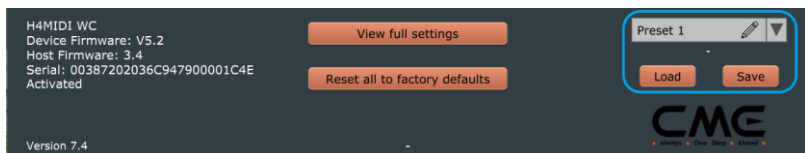


ソフトウェアのバージョンが製品の最新のファームウェアバージョンと一致しない場合、ソフトウェアはポップアップウィンドウでアップグレードするように求めます。「Yes, download new version」ボタンをクリックして最新バージョンのソフトウェアをダウンロードし、ダウンロードしたファイルを解凍してインストールすると、ソフトウェアの更新が完了します。



* 注 コンピューターがインターネットに接続されていることを確認してください。

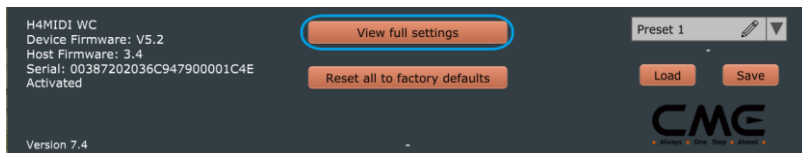
- [Preset]: フィルター、マッパー、ルーターなどのカスタム設定は、CME USB HOST MIDI デバイスに[Preset]として保存され、スタンドアロンで使用できます(電源を切った後でも)。カスタムプリセット付きの CME デバイスをコンピューターの USB ポートに接続し、HxMIDI ツールで選択すると、ソフトウェアは自動的にデバイスのすべての設定とステータスを読み取り、ソフトウェアインターフェースに表示します。

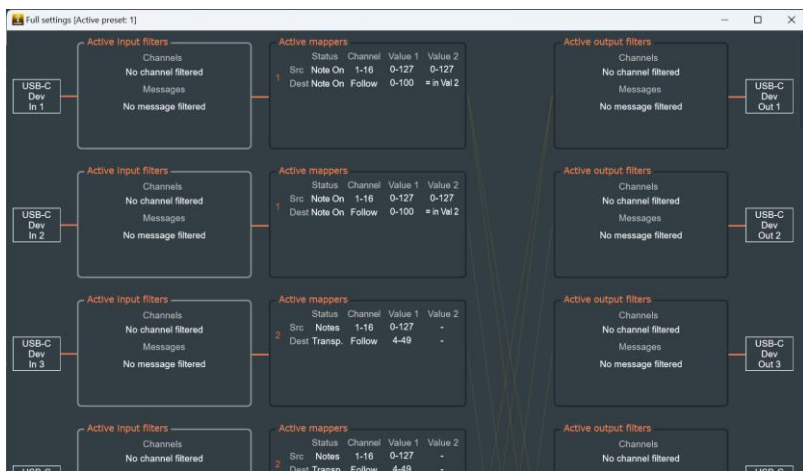


- 設定する前に、ソフトウェアインターフェイスの右下隅にあるプリセット番号を選択してから、パラメータを設定してください。すべての設定変更は、このプリセットに自動的に保存されます。プリセットは、多機能ボタンまたは割り当て可能な MIDI メッセージで切り替えることができます(詳細については、[Preset settings]を参照してください)。プリセットを切り替えると、それに応じてインターフェイスの LED が点滅します(LED は プリセット 1 で 1 回点滅し、プリセット 2 では 2 回点滅します)。
- プリセット名の右側にある[pencil icon]をクリックして、プリセット名をカスタマイズします。プリセットの名前の長さは、英語と数字で 16 文字に制限されています。
- [Save] ボタンをクリックして、プリセットをコンピューターとして保存します file.
- [Load] ボタンをクリックすると、コンピューターから現在のプリセットにプリセットファイルがロードされます。

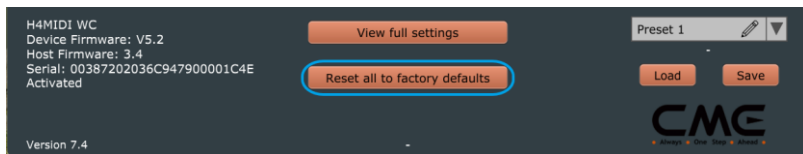
* 注 プリセット ファイルは HxMIDI Tools フォルダにのみ保存してください。そうしないと、ファイルを再ロードできなくなります。

- [View full settings]:このボタンは、全体的な設定ウィンドウを開き、現在のデバイスの各ポートのフィルター、マッパー、およびルーターの設定を1つの便利な概要で表示します。





- **[Reset all to factory defaults]:** このボタンは、ソフトウェアによって接続および選択されたデバイス(フィルター、マッパー、ルーターを含む)のすべての設定を元の工場出荷時のデフォルトに戻します。

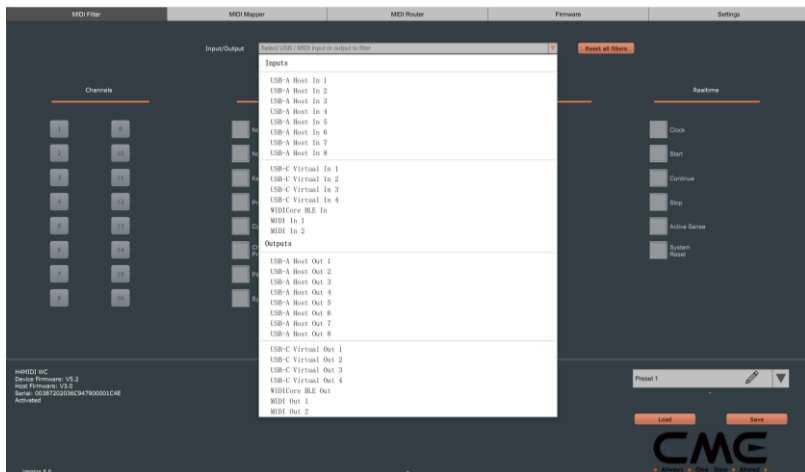


MIDI Filter

MIDI フィルターは、選択した入力ポートまたは出力ポートの特定のタイプの MIDI メッセージが通過しなくなったのをブロックするために使用されます。

- フィルターを使用する:

- まず、画面上部の[Input/Output]ドロップダウンウィンドウで設定する必要がある入力ポートまたは出力ポートを選択します。入力ポートと出力ポートを下図に示します。

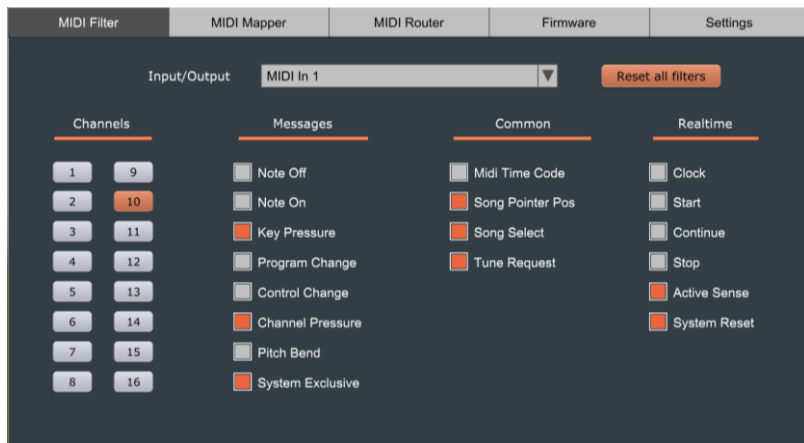


*注以下の図は、HxMIDI Tools ソフトウェアの各種入出力ポートの接続を示しています (H4MIDI WC を例に挙げています)。入力ポートはコンピューターおよび接続された MIDI デバイスからデータを受信するために使用され、出力ポートはコンピューターおよび接続された MIDI デバイスにデータを送信するために使用されます。



- 下のボタンまたはチェックボックスをクリックして、プロ

ックする必要がある MIDI チャンネルまたは メッセージタイプを選択します。MIDI チャンネルを選択すると、この MIDI チャンネルのすべてのメッセージがフィルタリングされます。特定のメッセージタイプを選択すると、そのメッセージタイプはすべての MIDI チャンネルでフィルタリングされます。



- **[Reset all filters]:** このボタンは、すべてのポートのフィルター設定をデフォルトの状態にリセットし、どのチャンネルでもフィルターがアクティブになっていません。

MIDI Mapper

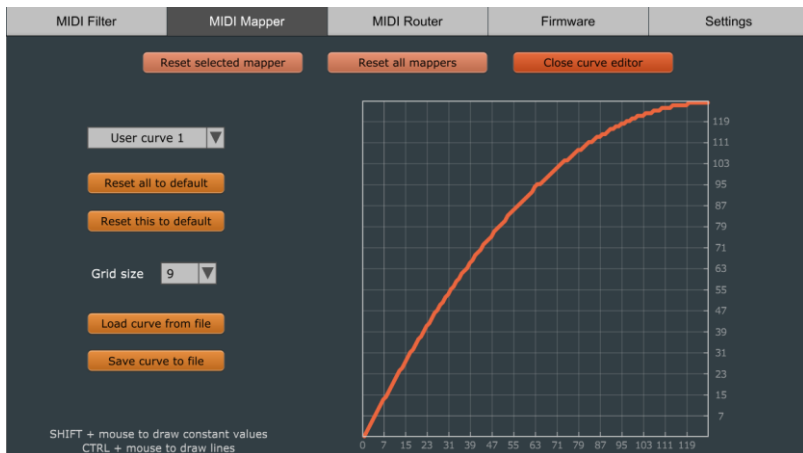
「MIDI Mapper」ページでは、接続および選択したデバイスの入力データを再マッピングして、ユーザーが定義したカスタムルールに従って出力できるようにすることができます。たとえば、演奏した

ノートをコントローラーメッセージや別の MIDI メッセージに再マッピングできます。これに加えて、データ範囲と MIDI チャンネルを設定したり、データを逆に出力したりすることもできます。



- **[Reset selected mapper]:** このボタンは、現在選択されているシングルマッパーと、接続して選択されている CME USB HOST MIDI デバイスに保存されているマッパー設定をデフォルトの状態にリセットし、新しいセットアップを開始できるようにします。
- **[Reset all mappers]:** このボタンは、MIDI マッパーページのすべてのセットアップパラメーターと、接続して選択した CME USB HOST MIDI デバイスに保存されているマッパー設定をデフォルトの状態にリセットします。
- **[Edit curves]:** このボタンをクリックすると「カーブ編集」ウィンドウが開き、ユーザー定義のデータカーブをマッパーのターゲットデータとして使用できます。ユーザー定義のカーブは、CME USB ホスト MIDI デバイスに自動的に保存されます（電源がオフの場合でも）。カスタムカーブが保存された CME デバイスをコ

コンピュータの USB ポートに接続し、HxMIDI Tools ソフトウェアで選択すると、ソフトウェアはデバイスのカーブ設定を自動的に読み取り、ユーザーはソフトウェアの「カーブ編集」ページでカーブ設定を確認できます。



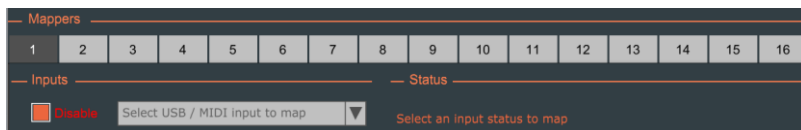
- 「カーブ編集」ウィンドウを開き、マウス（タッチスクリーン搭載のコンピュータの場合は指）を使ってグリッド領域をスライドし、必要なカーブを描きます。
- ウィンドウ左側のドロップダウンオプションから、様々なユーザー定義カーブを選択できます。
- **[Reset all to default]:** このボタンをクリックすると、ソフトウェア内のすべてのカーブ設定と、接続され選択されている CME USB ホスト MIDI デバイスに保存されているカーブ設定が、デフォルト状態にリセットされます。
- **[Reset this to default]:** このボタンをクリックすると、ソフトウェア内の現在のカーブ設定と、接続され選択されている CME USB ホスト MIDI デバイスに保存されている現在のカーブ設定が、デフォルト状態にリセットされます。

- **[Grid size]:** このオプションを使用して、曲線領域に表示されるグリッドの細かさを調整できます。
- **[Load curve from file]:** このボタンをクリックすると、コンピュータから現在のユーザーカーブにカーブファイルをロードします。
- **[Save curve to file]:** このボタンをクリックすると、現在のユーザーカーブがコンピュータファイルとして保存されます。

* 注1: Mac または Windows コンピュータでマウスを使用してユーザーカーブを描く場合、**「[Shift]キーを押しながらマウスの左ボタンを押してスライド」**すると、**同じ値の直線カーブを簡単に描くことができます。****「[CTRL]キーを押しながらマウスの左ボタンを押してスライド」**すると、**斜めの直線カーブを簡単に描くことができます。**

* 注2: ユーザーカーブファイルは HxMIDI Tools フォルダにのみ保存してください。そうしないと、ファイルを再読み込みできなくなります。

* 注3: コンピュータに保存されるユーザーカーブファイルはテキスト形式です。より正確な値が必要な場合は、メモ帳などのテキスト編集ソフトウェアを使用して128個の値を修正できます。



- **[Mappers]:** これらの16個のボタンは、自由に設定できる16の独立したマッピングに対応しており、複雑なマッピングシナリオを定義できます。

* 注: H12MIDI Pro は 24 個のマッパーを搭載しています。

- マッピングが構成されている場合、ボタンは逆の色で表示されます。
- 設定済みで有効なマッピングの場合、ボタンの右上隅に緑色の点が表示されます。

● [Inputs]: マッピングする入力ポートを選択します。

- [Disable]: 現在のマッピングを無効にします。
- [USB Host In]: USB ポートからのデータ入力を設定します。
- [USB-C Virtual In]: USB-C デバイス ポートからのデータ入力を設定します。
- [WIDI Core BLE In](H4MIDI WC のみ): オプションの WIDI Core Bluetooth MIDI ポートからのデータ入力を設定します。
- [MIDI In]: DIN MIDI ポートから入力するデータを設定します。

● [Config]: このエリアは、ソース MIDI データとユーザー定義の出力データ(マッピング後)を設定するために使用されます。上の行は入力用のソースデータを設定し、下の行はマッピング後の出力用の新しいデータを設定します。



- マウスマウスカーソルを各キー領域に移動すると、機能の説明が表示されます。

- 設定されたパラメータが正しくない場合は、エラーの原因を示すテキストプロンプトが機能領域の上に表示されます。
- ◆ **[Message]:** 上部でマッピングするソース MIDI メッセージタイプを選択し、下部でマッピングするターゲット MIDI メッセージタイプを選択します。別の [Message] タイプを選択すると、右側の他のデータエリアのタイトルもそれに応じて変更されます。

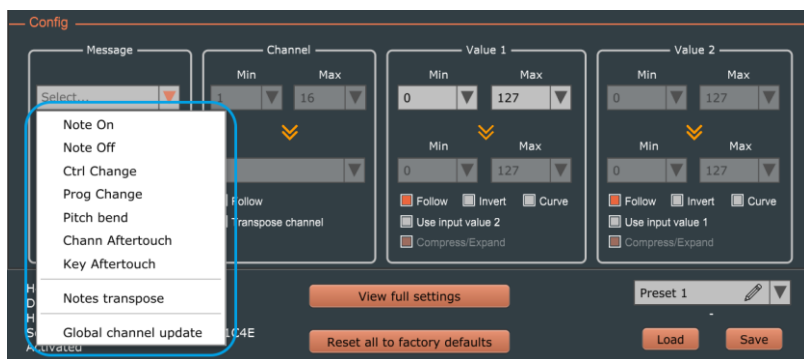


表 1: ソース データ タイプ

Message	Channel	Value 1	Value 2
Note On	Channel	Note #	Velocity
Note Off	Channel	Note #	Velocity
Ctrl Change	Channel	Control #	Amount
Prog Change	Channel	Patch #	N/A
Pitch bend	Channel	Bend LSB	Bend MSB
Chann Aftertouch	Channel	Pressure	N/A
Key Aftertouch	Channel	Note #	Pressure
Notes Transpose	Channel	Note->Transpose	Velocity
Global Channel Update	Channel	N/A	N/A

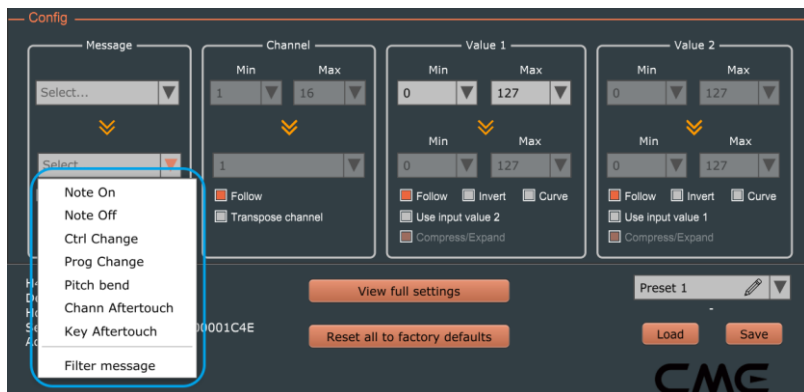


表 2: マッピング後の新しいデータ型

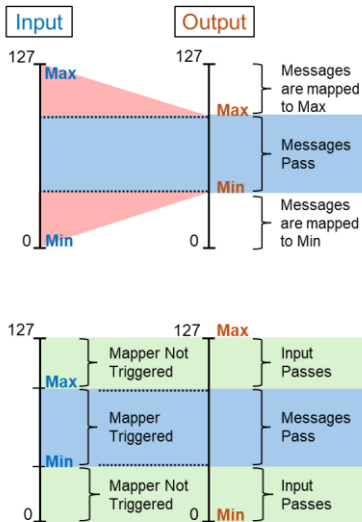
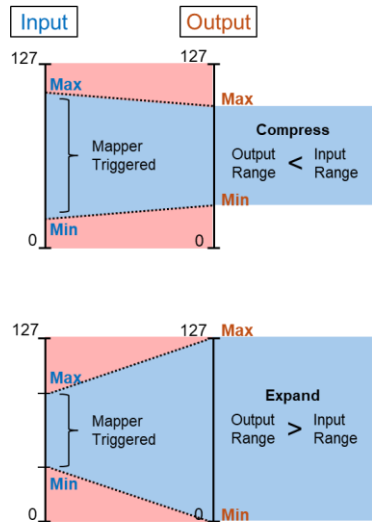
Note On	ノートオープン メッセージ
Note Off	ノートオフ メッセージ
Ctrl Change	制御変更 メッセージ
Prog Change	音色変更 メッセージ
Pitch bend	ピッチベンディングホイール メッセージ
Chann Aftertouch	チャンネル のアフタータッチ メッセージ
Key Aftertouch	ポリフォニックアフタータッチメッセージ
Filter Message	フィルタリングするメッセージ

- **[Keep original]:** このオプションを選択すると、マッピングされた MIDI メッセージと同時にオリジナル MIDI メッセージが送信されます。元の MIDI 情報は保持され、再度マッピングに使用することはできませんのでご注意ください。
- **[Random notes skip]:** ノートをランダムにスキップします。ドロップダウンオプションをクリックして、指定されたノート範囲内でランダムにフィルタリングする

ノートの割合を設定します。

- **[Channel]:** ソース MIDI チャンネルと宛先 MIDI チャンネル、範囲 1~16 を選択します。
 - **[Min]/[Max]:** 最小チャンネル値/最大チャンネル値の範囲を設定し、同じ値に設定できます。
 - **[Follow]:** このオプションを選択すると、出力値はソース値と同じ(フォロー)になり、再マッピングされません。
 - **[Transpose Channel]:** このオプションを選択すると、選択したチャンネルの値を増減できます。
- **[Value 1]:** 選択した[Message]タイプ(表 2 を参照)に基づいて、このデータは 0~127 の範囲の Note # / Control# / Patch # / Bend LSB / Pressure / Transpose にすることができます(表 1 を参照)。
 - **[Min]/[Max]:** 最小値/最大値を設定して範囲を作成するか、特定の値に対する正確な応答のために同じ値に設定します。
 - **[Follow]:** このオプションを選択すると、出力値はソース値と同じ(フォロー)になり、再マッピングされません。
 - **[Invert]:** 選択すると、データは逆の順序で出力されます。
 - **[Curve]:** 選択すると、指定したカーブに沿ってデータが出力されます。
 - **[Use input value 2]:** 選択すると、入力値 2 から出力値 1 が取得されます。

- **[Compress/Expand]:**値を圧縮または拡張します。選択すると、ソース値の範囲は、ターゲット値の範囲に比例して圧縮または拡張されます。
- **[Value 2]:** 選択した [Message] タイプ (表 2 を参照) に基づいて、このデータは Velocity / Amount / Bend MSB / Pressure となり、範囲は 0 ~ 127 になります (表 1 を参照)。
 - **[Min]/[Max]:**最小値/最大値を設定して範囲を作成するか、特定の値に対する正確な応答のために同じ値に設定します。
 - **[Follow]:** 選択すると、出力値はソース値 (フォロー) と同じになり、再マップされません。
 - **[Invert]:** 選択すると、データは逆の順序で出力されます。
 - **[Curve]:** 選択すると、指定したカーブに沿ってデータが出力されます。
 - **[Use input value 1]:**選択すると、入力値 1 から出力値 2 が取得されます。
 - **[Compress/Expand]:**値を圧縮または拡張します。選択すると、ソース値の範囲は、ターゲット値の範囲に比例して圧縮または拡張されます。
- **※ [Compress/Expand] オプションに関する注意事項:** マッパーの対象値範囲が元データ範囲と異なる場合に、設定値を対象値範囲に圧縮または拡張できるオプション。

Compress / Expand **Disabled**Compress / Expand **Enabled**

マッパーが設定した出力範囲が入力範囲より小さい場合、例えば 0-40 を 10-30 にマッピングする場合、[Compress/Expand] オプションを無効にすると、それに応じて 10-30 のみがマッパーを介して出力され、0-9 は 10 にマッピングされ、31-40 は 30 にマッピングされます。

[Compress/Expand] オプションを有効にすると、圧縮アルゴリズムは設定された範囲全体に対して機能し、0 と 1 は 10 にマップされ、2 と 3 は 11 にマップされます...39 と 40 が 30 にマップされるまで、この作業が繰り返されます。

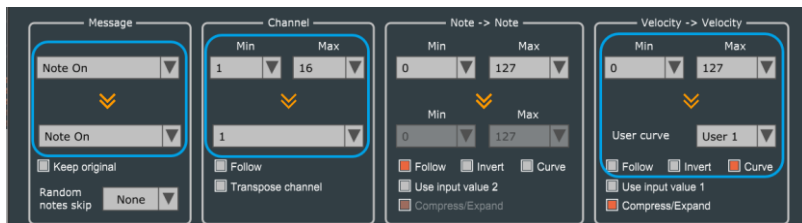
マッパー設定の出力範囲が入力範囲より大きい場合、例えば 10-30 を 0-40 にマッピングする場合、[Compress/Expand] オプションを無効にすると、0-10 と 30-40 はマッパーを経由せず直接通過し、10-30 はそれに応じてマッパーを経由して出力されます。

[Compress/Expand] オプションを有効にすると、拡張アルゴリズムは設定された範囲全体に対して機能し、10 は 0 にマップされ、11 は 2 に

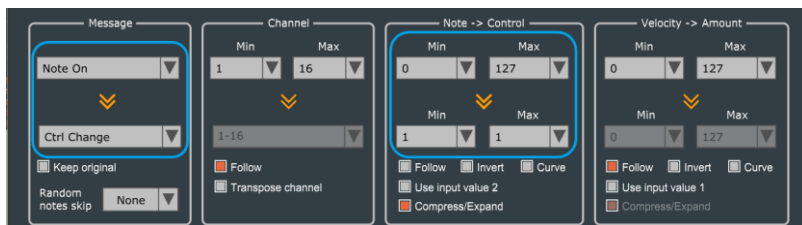
マップされます...30 が 40 にマップされるまで、というように続きます。

● マッピングの例:

- 任意のチャンネル入力の[Note On]をすべてチャンネル1の出力にマッピングし、ベロシティレスポンスをユーザーカーブ1にマッピングします。

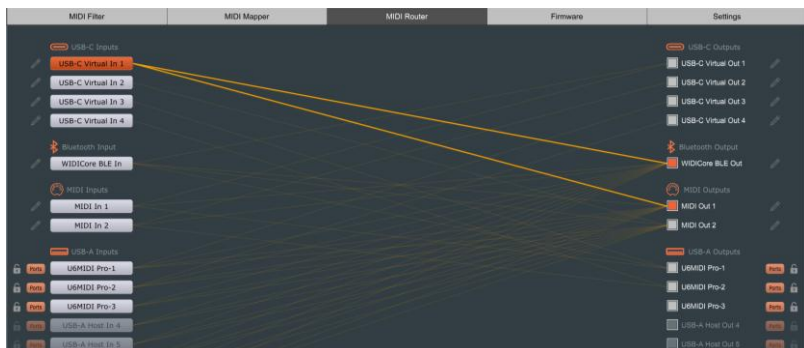


- すべての[Note On]を[Ctrl Change]の CC#1 にマッピングします。



MIDI Router

MIDI ルーターは、CME USB HOST MIDI デバイスの MIDI メッセージの信号フローを表示および構成するために使用されます。

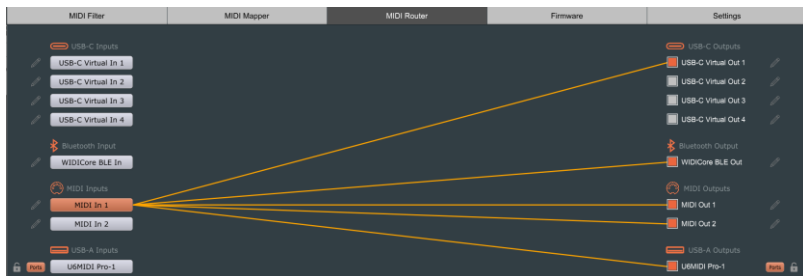


● 配線の方向を変更します。

- まず、左側の入力ポートボタンをクリックすると、ソフトウェアは接続を使用してポートの信号方向(存在する場合)を表示します。
- 右側のチェックボックスをクリックして、ポートの信号方向を変更するために必要な1つ以上のチェックボックスを選択/キャンセルします。同時に、ソフトウェアは接続を使用してプロンプトを表示します。現在選択されているポート接続が強調表示され、残りの接続は淡色表示されます。
- ポートの横にあるペンアイコンをクリックして、このソフトウェアに表示されるポートの名前をカスタマイズします(ただし、この名前は DAW ソフトウェアに表示されるポート名には影響しません)。

● H4MIDI WC の例:

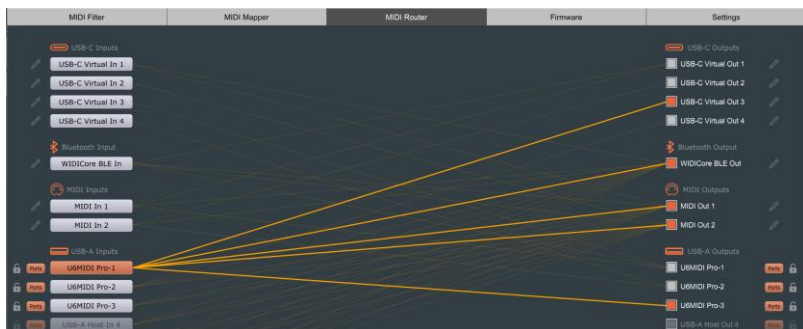
MIDI スプリット/スルー



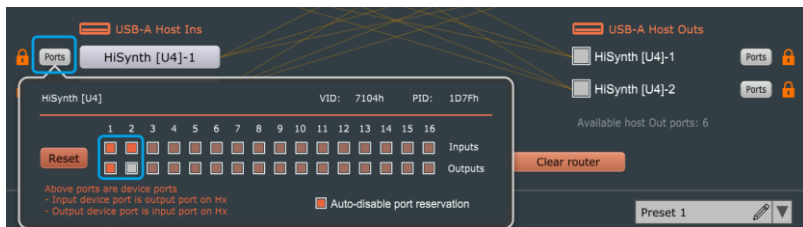
MIDI マージ



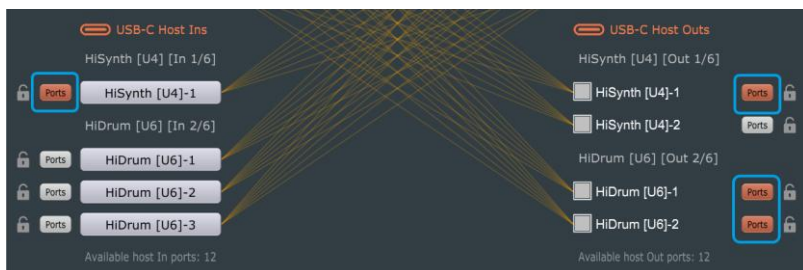
MIDI ルーター - 詳細設定



- [Port]: このボタンをクリックして、同じデバイスの複数の USB 仮想ポートを有効または無効にし、不要なデバイスポートが USB-A ホストポートを占有するのを防ぎます。



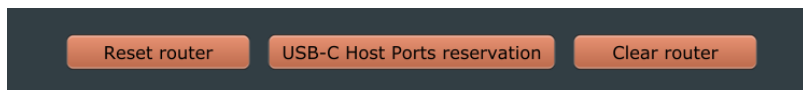
- 必要に応じて、入力ポートまたは出力ポートの選択ボックスをクリックします。ここでいう「入力」とは、実際には接続したデバイスの USB MIDI 仮想入力ポートを指し、これは HxMIDI Tools ソフトウェアに表示される USB 出力ポートであり、「出力」は HxMIDI Tools の USB 入力ポートであることに注意してください。
- ポートを選択して有効にすると、その選択ボックスがオレンジ色で表示されます。ポートの選択を解除して無効にすると、その選択ボックスが白で表示されます。[Reset] ボタンをクリックすると、ポートの選択状態がリセットされます。
- ポートを選択した後、ソフトウェアインターフェイスの他の領域でマウスをクリックしてポート選択ウィンドウを閉じると、無効にされたポートが USB ポートリストから消えます。



* 注: [Ports] ボタンがオレンジ色に点灯している場合は、USB デバイスの一部のポートが無効になっていることを示します。



* 注: 特定のポートを無効にすると、システムは自動的に USB ホストインターフェースを再起動し、アクティブなポートリストを更新します。接続されているデバイスにポート位置が予約されていない場合、プロンプトが表示されます。ポートの順序を固定し、マッピングの競合を防ぐために、「USB Host Port Reservation」機能を使用してください。



- [Reset router]: このボタンをクリックすると、現在プリセットされているすべてのルーター設定がデフォルトの状態にリセットされます。
- [Clear router]: このボタンをクリックすると、現在のプリセットのすべてのルーティング接続がクリアされ、アクティブなルーティングがなくなります。
- [USB Host Ports reservation]: このボタンをクリックすると、USB ホス

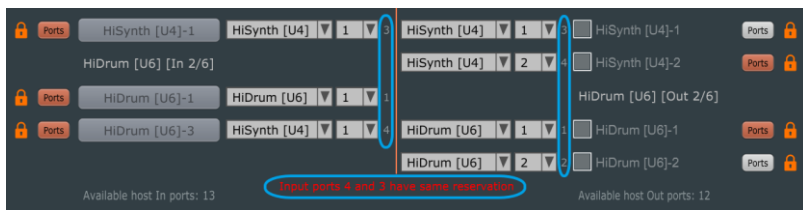
トの仮想ポート位置にある特定の USBMIDI デバイスのポートが予約され、次回の起動時に、接続された複数の USBMIDI デバイスが元の順序を維持できるようになります。



- 最初に入力ラベルと出力ラベルの下のデバイスを選択し、次にポートを選択します。デバイスとポートを選択すると、USB ポートの横にロックアイコンが表示され、ポートが予約されていることを示します。
- [Reset all] ボタンをクリックすると、現在選択されているすべての選択がデフォルトの状態にリセットされます。ポート予約設定が変更されていない場合は、再度[USB Host Ports reservation] ボタンをクリックして設定インターフェースを終了し、ルーティング設定に戻ってください。
- [Auto reserve] をクリックすると、現在有効になっているすべての USB デバイスポートに現在の位置を自動的に割り当てて予約し、手動で設定する必要がなくなります。
- [Show all] をチェックすると、すべての仮想ホストポート（接続済みおよび未接続の両方）が表示されます。これに

より、ポートの重複予約によるデバイスの競合を簡単に確認し、解決できます。

- [Apply ports reservation] ボタンをクリックすると、予約されたポート設定が ハードウェアインターフェースのフラッシュメモリに自動的に保存されます。同時に、接続されたハードウェアインターフェースが自動的に再起動し、ソフトウェアインターフェースが更新され、最新の予約済みポート設定が表示されます。

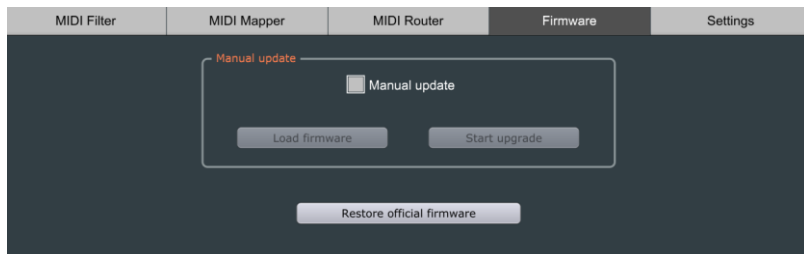


*** 注:** ポート予約ドロップダウンメニューの横にある数字は内部ポートインデックスであり、通常はユーザーが注意を払う必要はありません。同じ位置が複数のデバイスに繰り返し予約されている場合は、このインデックスに基づいて競合を迅速にトラブルシューティングできます。同時に、ソフトウェアはエラー項目を赤色のテキストで強調表示します。

Firmware

ソフトウェアを自動的に更新できない場合は、このページで手動で更新できます。www.cme-pro.com/support/ Web ページにアクセスし、CME テクニカル サポートに連絡して最新のファームウェア ファイルを入手してください。ソフトウェアで[Manual update]を選択し、[Load firmware]ボタンをクリックしてダウンロードしたファームウェアを選

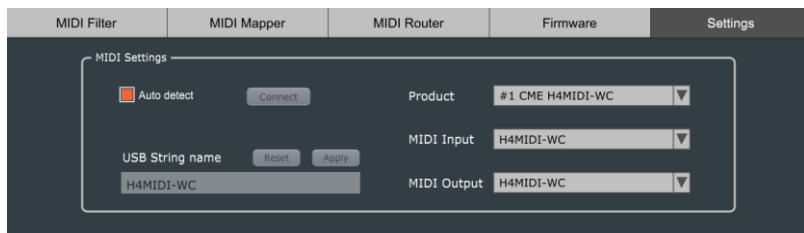
択します file コンピューター上で、[Start upgrade]をクリックして更新を開始します。



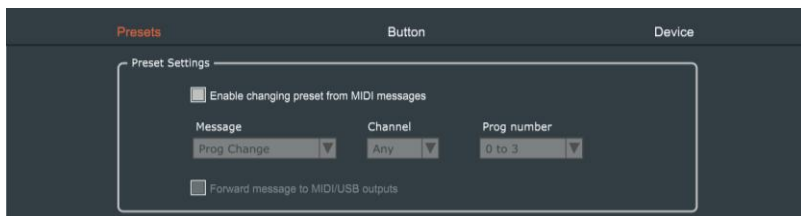
- **[Restore official firmware 元]:** デバイスに最新のベータ版のファームウェアがインストールされている場合は、このボタンをクリックして、CME のサーバーから公式にリリースされたファームウェアバージョンをダウンロードしてダウングレードすることもできます。

Settings

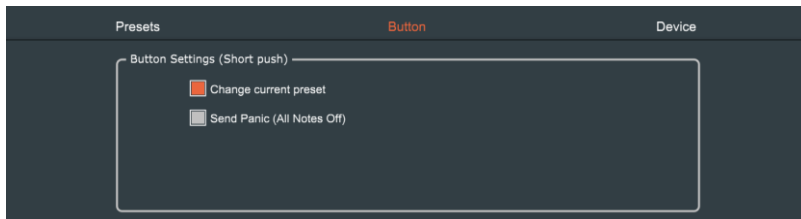
[Settings]ページは、ソフトウェアでセットアップおよび操作する CME USB HOST MIDI デバイスモデルとポートを選択するために使用されます。複数の CME USB HOST MIDI デバイスが同時に接続されている場合は、ここでセットアップする製品とポートを選択してください。



- **[USB String name]:** 同一の CME USB ホスト MIDI インターフェース（例：2 台の H4MIDI WC）をお持ちの場合、音楽ソフトウェアで同時に使用する際の混同を避けるため、ここで異なる名前を割り当てることができます。テキストボックスに名前を入力し、**[Apply]** をクリックしてください。新しい名前を有効にするには、ソフトウェアの指示に従ってインターフェースを再接続してください。

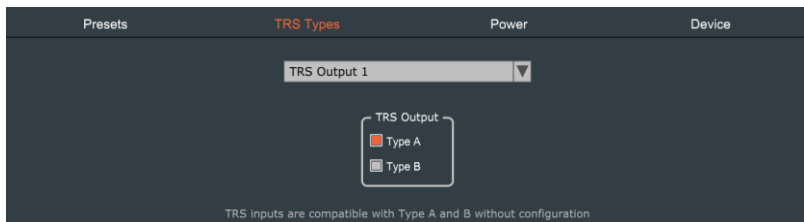


- **[Presets settings]:** [Enable changing preset from MIDI messages] オプションを選択すると、ユーザーはノートオン、ノートオフ、コントローラー、またはプログラムチェンジ MIDI メッセージを割り当てて、プリセットをリモートで切り替えることができます。
[Forward message to MIDI/USB outputs] オプションを選択すると、割り当てられた MIDI メッセージも MIDI 出力ポートに送信できるようになります。



- **[Button]:** ユーザーは、現在のプリセットを変更するようにボタンを設定するか、オールノートオフメッセージを送信するかを選

択できます。



- **[TRS Types] (H12MIDI Pro のみ):** ここでは TRS MIDI 出力ポートを Type A または Type B に設定できます。TRS 入力ポートは設定不要で Type A および Type B の両方に対応しています。



- **[Power] (H12MIDI Pro のみ):** ここでは電源管理の設定が行えます。[Wake-up from USB device activity]にチェックを入れると、USB-C クラウドポート経由でコンピュータから MIDI メッセージを受信した際に、インターフェースを自動的にウェイクアップ（復帰）させることができます（デフォルトではオフ）。[Time before entering power down]ドロップダウンリストを使用して、インターフェースが自動的に電源オフになるまでの待機時間を設定してください。



- **[Device]:** この機能は、互換性の問題がある USB デバイスの USB 説明を抽出し、CME サポートチームに送信してサポートを求めるために使用されます。
 - まず、CME USB HOST MIDI インターフェースの USB ポートに接続されているすべての USB ハブとデバイスを取り外してから、[Start device dump] ボタンをクリックしてください。
 - 次に、以前に認識されていなかった USB デバイスをインターフェースの USB ポートに接続すると、デバイスの USB 記述子がウィンドウの灰色の領域に自動的に抽出されます。
 - [Start device dump] ボタンの右にあるコピーアイコンをクリックすると、すべての USB ディスクリフトが自動的にクリップボードにコピーされます。
 - メールを作成し、USB 記述子をメールに貼り付けて、support@cme-pro.com に送信します。CME は、ファームウェアのアップグレードを通じて互換性の問題を解決しようとしています。

***注** ソフトウェアのバージョンは継続的に更新されるため、上記のグラフィカルインターフェイスは参照用であり、ソフトウェアの実際の表示を参照してください。

よくある質問

- **CME USB MIDI デバイスがコンピュータに認識されません。**
 - **Windows 10/11 の場合:**

コンピュータがしばらくアイドル状態（スリープモードやその他の省電力モード）だった場合、ソフトウェアが初回起動時に CME USB MIDI インターフェースを検出しないことがあります。ただし、ソフトウェアを再起動すると通常は問題が解決します。
 - **Windows でのマルチクライアント:**

CME ソフトウェア以外の音楽アプリケーションが既に USB MIDI ポートを使用しています。Windows はマルチクライアント MIDI をサポートしていないため、CME ソフトウェアへのアクセスがブロックされる可能性があります。
 - **MacOS でのデバイス名の変更:**

CME USB MIDI デバイスの名前を変更した場合、CME ソフトウェアは接続を確立するために元のデバイス名を必要とするため、デバイスを認識しない可能性があります。
 - **MacOS での MIDI Studio 経由のルーティング:**

macOS MIDI Studio で CME USB MIDI インターフェースを手動でルーティングした場合（例：IAC 経由、またはその他の設定経由）、インターフェースの最初の USB ポートが占有される可能性があります。CME ソフトウェアは最初のポートが利用可能であることを前提としているため、競合が発生する可能性があります。
 - **USB ケーブルを確認してください。**

通信が中断されないように、高品質の USB（データ）ケーブル

ルと信頼性の高い USB ハブを使用してください。

接触

E メール: support@cme-pro.com

ウェブサイト: www.cme-pro.com